

領域別項目対照表

大学院名: (あくまでも一つの参考例として作成)

■科目番号と項目番号

研究科名: (あくまでも一つの参考例として作成)

別紙「科目番号と項目番号」を参照し、下表の科目番号項目番号欄に記入してください。

担当者名: (作成者)石隈利紀

記入例 1-(1)、実1-(1)

科目名: 心理教育的アセスメント
心理教育的アセスメント基礎実習

No.	授業スケジュール	主な内容	科目番号 項目番号	(認定委員会記入欄)
1	心理教育的アセスメントとは	心理教育的アセスメントの定義および心理教育的アセスメントの目的と基本的なプロセスについて学習する。とくに心理教育的アセスメントが援助サービスにおける援助者の意志決定の基盤となることを理解する。またカウンセラーの「賢いアセスメント」の考え方、そしてアセスメントの倫理について学習する。	5-(1)	
2	心理教育的アセスメントの方法	子ども(学習面、心理・社会面、進路面、健康面)、環境(学級、学校、家庭など)、子どもと環境の相互作用に関する心理教育的アセスメントの方法について学習する。具体的には、行動観察、子どもの面接関係者との面接、記録・書類の検討、心理検査に関する方法と留意点について理解する。とくに、アセスメントの多様な方法を活用する意義について学習する。	5-(2)	
3	心理検査の活用	基本的な心理検査について理解し、活用するための基礎知識(各検査の目的・対象、限界)を獲得する。具体的には、知能検査・発達検査、学力検査、人格検査等について学習し、検査をバッテリーとして活用することを理解する。	5-(3)	
4	学級・学校のアセスメント	子どもの環境のアセスメントについて、具体的には学級集団・学級風土、そして学校における援助サービスの状況を把握する方法について学習する。学級集団のアセスメントに関しては、生徒の人間関係を把握する方法について理解し、学級経営の基礎的な知識とする。また学校のアセスメントは、校内の援助サービスに関する組織(コーディネーション委員会など)や援助資源について把握する方法を理解し、援助サービスのシステムづくりに関するコンサルテーションの基盤となる知識を獲得する。さらに子どもと環境の相互作用についてのアセスメントについても学習する。	5-(4)	
5	教育評価	児童生徒の状況や指導・援助の状況を把握し、教育の改善を検討する、教育評価の意義とプロセスについて学習する。診断的評価・形成的評価・総括的評価について理解するとともに、教育評価に関連する統計の基礎的知識を得る。	5-(5)	
6	日本版WISC-IIIの概要	知能検査の歴史を理解し、そのなかでWISC-IIIの理論的基盤および構成(言語性尺度、動作性尺度)について学習する。そして「標準化検査」において標準化手続きを遵守する意義について理解する。	実1-(1)	
7 8	言語性検査の実施と採点	6つの言語性の下位検査の実施と採点について実習を行う。とくに、採点の比較的難しい「類似」「単語」「理解」についてはよく練習する。	実1-(1)	
9 10	動作性検査の実施と採点	7つの動作性の下位検査の実施と採点について実習を行う。検査道具の使い方についても習熟する。	実1-(1)	
11 12	検査結果の解釈	全検査IQの解釈、言語性IQ-動作性IQの解釈、4つの群指数(言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度)による解釈、下位検査プロフィールによる解釈について、実習する。同時に、検査結果の信頼区間など統計的意味についても学習する。WISC-IIIの結果に、他の心理検査、検査中の行動観察、日常の観察(学校や家庭で)などの情報を加えて、総合的に結果の解釈を行うプロセスを体験する。	実1-(2)	
13 14 15	まとめ	WISC-IIIを核とする心理教育的アセスメントに基づき、子どもの個別の指導計画、教育支援計画における、具体的な指導案・援助案の提案について実習する。とくに、WISC-III等の結果の解釈と、発達心理学や特別支援教育など学校心理学に関連する知識を統合して、現実の教室場面や教師の使用できる援助サービスの提案をするプロセスについて理解する。さらに、検査結果、アセスメントの結果を子ども、保護者、教師にどう伝えるかについて学び、ケースレポートの作成について訓練を受ける。	実1-(3)	

※シラバスを添付してください。(今回は、上記の記述でシラバスに代えている)